

第 41 回原子力安全専門委員会定例会
(結果概要)

原子力安全対策課

日 時：平成26年10月 7 日（火）14時00分～15時00分

場 所：福井県庁10階 1002会議室

出席者：

専門委員：中川委員長、三島委員、田島委員、飯井委員、
大堀委員、岩崎委員、田岡委員

県：(原子力環境監視センター) 田賀所長、玉柿研究員
(原子力安全対策課) 岩永企画幹、伊藤参事 他

議 題：

1. 原子力発電所周辺の環境放射能調査報告について
 - ・平成 26 年度（第 1 四半期分報告）
 - ・平成 25 年度（年報）
- 2 発電所の運転および建設状況について
(平成 26 年 7 月～平成 26 年 10 月)

結果概要：

議題 1（原子力発電所周辺の環境放射能調査報告）について、次のような質疑があった。
議題 2（発電所の運転および建設状況）については、特にコメントはなかった。資料については、次回の原子力環境安全管理協議会の場で配付予定である。

なお、会議の冒頭において、事務局より新たに委員に就任された福井大学の田岡教授の紹介を行った。

<主な質疑>

<事務局説明概要（原子力発電所周辺の環境放射能調査報告）>
(平成 26 年度第一四半期結果報告)

- ・ 県内発電所からの放射性物質の放出に起因する線量上昇は観測されなかった。
- ・ 浮遊じん放射能の連続測定結果についてはいずれも天然放射能のレベルであった。
- ・ 福島第一原子力発電所事故や核実験フォールアウト等の影響によるセシウム 137 が検出されたが、環境安全上問題となるレベルに比べ、はるかに低い濃度であった。
- ・ 大気中水分、雨水および海水から発電所の通常の放射性廃棄物管理放出に伴うトリチウムが検出されたが、環境安全上問題となるレベルに比べ、はるかに低い濃度であった。

(平成 25 年度結果報告)

- ・ 線量率測定および積算線量測定において、県内発電所からの放射性物質の放出に起因する線量上昇は観測されなかった。
- ・ 環境資料中の放射能測定の結果、福島第一原子力発電所や核実験フォールアウト等の影響によるセシウム 134 およびセシウム 137 が検出されたが、環境安全上問題となるレベルに比べ、はるかに低い濃度であった。また、大気中水分、雨水および海水から発電所の通常の放射性廃棄物管理放出に伴うトリチウムが検出されたが、環境安全上問題となるレベルに比べ、はるかに低い濃度であった。
- ・ 核種分析の結果、平成 24 年度と比較して、セシウム 134 とセシウム 137 の検出頻度、検出濃度ともに減少傾向にある。
- ・ 放射化学分析の結果、各種環境試料からストロンチウム 90 とプルトニウム 239 が検出されたが、過去の核実験フォールアウトによるものと考えられる。

Q.

放射能濃度の値が 0.01mBq/l や 0.02mBq/l など非常に小さい数字まで記載されているが、測定器の誤差に関して、測定器はどの程度の精度を有しているのか。測定器の誤差が大きい場合、測定誤差の範囲の中ではほとんど変わらないと思う。

測定器の精度についても資料の中で合わせて記載した方が良いのではないか。

A.

検出下限値は試料によっても違いがあり、試料を濃縮した際にも変わる。測定時には、測定誤差もデータとして保有しているが、報告書として整理する段階では測定誤差までは掲載していない。今後は検出下限値等を報告書にどのように掲載できるか検討する。

以上